

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和8年 3月25日
学校法人 田中学園
ちよの幼稚園

1. 本園の教育目標

- ① げんきな子 健康で明るく、自立できる個性のある子どもを育てる
- ② 思いやりのある子 集団の中でも日常のきまりを重んじ誰とでもよく遊べる子どもを育てる
- ③ どんなことにもがんばる子 すなおで感受性、創造性に富む子どもを育てる。

2. 重点項目

・ちよの幼稚園について

当園は、開園 46 年を迎え、2560 名の子ども達が卒園し、様々な所で活躍をしている。子どもたちの教育・保育の環境は現在の社会情勢から認定こども園等さまざまな形がある。当園は幼児教育として大切な家庭との連携や、子ども達が安定して幼児期を過ごせるよう私学助成型の幼稚園として運営を行っていた。ただ、社会情勢の変化で子育て世代の就労や低年齢児の保育のニーズも強まっており、R5 年度より幼稚園型認定こども園に移行した。子育て支援として0歳から園にかかわり、教育の基盤である家庭教育をしっかりサポートしていき幼稚園教育につなげていく。生涯続く学びの基礎を培っていく環境づくりを今年度も進めてきた。移行後は、自園給食、1 歳児保育が新たに始まり、共に安定し始めている。

R6 年度 10 月 25 日には ECEQ を活用した公開保育を行い、保育関係者、学校関係者より多くの好評をいただいたと共に、職員一人ひとりが教育に対する意識が向上し、教育の質の評価に繋がった。

・自己肯定感を持ち主体的に取り組む学びを支える環境づくり

幼い子ども達には、大人の温かな見守り・関わりの中で安心して健康に生活する事が何より大切である。また、日々の暮らしの中で身につける生活習慣が心と体の土台を作り、将来の人間形成の基礎になる。「自分は愛されている」という感覚(自己肯定感)を育て、子ども達の中に備わっている「自分で伸びようとする力」を引き出している。体の育ちと併せて、子ども達の自我の芽生え・興味関心の広がり・社会性の育ちといった様々な発達を踏まえ、集団を通じた教育を大切にしている。

幼稚園は、学校教育法第一条に定められた、子ども達が初めて出会う「学校」である。また、家庭から地域社会への、初めの第一歩でもある。自己肯定感を持って様々な事に積極的にかかわろうとする子ども達を育てていきたい。家庭との連携をより大切に子ども達の成長を喜びあっていく。その為にすべてにつながる最も大切な存在、教師。研修等で研鑽し、本園の教育活動にふさわしい人員配置をしてより質の高い教育を取り組みたい。認定こども園に移行して3年目となる本年度は下記の点を重点項目として取り組んできた。

・本年度重点に取り組む目標・計画

・教員の質の向上

園内研修及び県外研修等の充実を図り、教師の言葉がけや保育の質を高める

毎月の振り返り(KPT 研修)を活かし、個々が日々の仕事を振り返り、計画し、実践を行うという PDCA サイクルを回すことにより、教育の質の向上を図ることを継続して行なっている。また KPT 法の目的、目標が「個々の幼児教育の質の向上」から外れないようにマンドラチャートを使用し、それぞれの指針として活用することで自己評価のアップデートを図った。

・職員との連携の強化

園内連絡チャットツール Slack をより深く活用している。園長が研修で学んだことを研修報告書としてまとめ、Slack を通して共有するだけに限らず、学びのラジオを生成 AI にて作成し、学び方の幅を広げた。

・より良い質の高い教育を推進するための人事改善

職員の処遇改善及び保育環境の充実

研修委員会を新任から若手職員で再構築し、若手研修を行う委員会へと役割を変更し学びあった。

(R7 年度は見える化研修、絵本研修を実施、また園内研修というテーマで壁新聞を作成)

外部講師(蔵都氏)を招いてのミドルリーダー研修の実施。

・父親の会の発足

・職員同士の対話の充実

10月より CMG (コネクトミーティング) を実施し、週に3回、30分/1日、「保育・仕事について語り合う会」を設け、その内容を録音し、音声共有、文字起こし共有することで職員一人ひとりの思いを全体で共有することとした。CMG により職員が繋がり、その結果縦割り保育・横割り保育共に強化された。

・ICT の充実により業務改善及び、働き方改革 (DX) を行った。

(電子黒板・学級に2台の iPhone などの ICT 機器を使った教育、業務改革)

・個人記録改革プロジェクトの実施

園長を含む4人の記録プロジェクト委員で計画、実践、振り返りを繰り返し、ちよの幼稚園の個人記録アプリ『Chiyonote』を開発。試験的に運用。来年度本格運用に向けて調整中。

・1歳児クラスの個人計画の作成

・絵本管理の充実

保育者・親・子どもと絵本を繋ぐ、絵本管理システム『ChiyonoBooks』を開発。現在調整中。

・幼保小連携の強化

R7 年度は千代野地区が白山市の幼保小連携のモデル地区になったことにより、近隣の千代野保育所、はまなす保育園、千代野小学校との連携をこれまで以上に強化を図った。密な打ち合わせのもと、施設の垣根を超えた職員合同研修の実施や年長、1年生の交流の事前打ち合わせ、事後の振り返りを丁寧に行い、それぞれのねらい、成果を共有し、より深い交流を行うことができた。また「自分を大切にし、相手も大切にすることで心の土台を作りながら挑戦、探求できる子どもたち」を千代野地区の子どもたちの共通した育てたい子ども像とし、年長から小学校1年生のスタートカリキュラムを作成。

2. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	自己評価結果	評価
I 教育環境			
1	保育の計画	<p>・教育目標を基に作成した教育課程、年間指導計画に沿って、様々な行事に取り組んできた。また毎月の振り返りの共有や学期末の全学年による振り返りの会での成果報告を活かし、日々の子どもの育ち、職員が自身の保育を見つめ直すことによって、子どもの今の姿に応じた柔軟な計画を行なっている。</p> <p>・1歳児クラスは日々のアタッチメントを大切にしながらも生活習慣の形成を図り、2歳児は安定した環境の中でコーナー遊びを中心とした自由保育を行ってきた。3歳児からは集団での活動を意識させていく。4歳児ではクラスで話し合いを重ね、心の育ちに目を向け道徳教育を行った。5歳児では子ども会議という子ども同士の話し合いの活動を大事にし、子ども</p>	A

		<p>たちに自己実現の経験を積むことができた。絵画、英語、体育、音楽活動等日々取り組む事で様々な表現のベースを作ってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期末の振り返りの会で他学年の取り組みを吸収したり、縦の異年齢の交流が盛んになったりと園全体の教育の繋がりが強くなってきている。 ・1歳児クラスの個人計画の新たなフォーマットを作成。個々の育ちをクラスのチームで共有し、支えられるようにしている。 ・全学年の週案を集約した全体週案を作成し、情報共有アプリ Slack を通して共有している。 	
2	教員体制の充実 教育環境の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・4800冊ある絵本を全て分類して子どもたち、職員が読みたい絵本をすぐ手に取れるように環境構成を行った。季節の絵本、その時期に読んでほしい絵本をピックアップしディスプレイを行い、ポップを作成し、手に取りたくなるような工夫を行なっている。また図書管理アプリを開発し、保育者がより保育に絵本を活用しやすいように図っている。 ・各学年に支援が必要な子等への支援、主担任の負担軽減のため補助教員を配置した。 ・環境整備を活用し、子どもたちの遊びが広がる玩具を多く導入した。R7年度においては園庭に八角ジムを設置し、遊びを通して掴む力、自分の引っ張る力がつくように環境強化した。 ・白山市の 4:1 加算補助金を活用し、1 歳児クラスに手厚い職員配置を行っている。 	A
3	研修や研究	<ul style="list-style-type: none"> ・研修委員会を新任から若手職員で再構築し、「研修計画を立てながら学び合う」という目的に変更し、実践した。(R8年度は見える化研修・絵本研修の実施) ・園内研修を適宜行い、KPT 法を使い毎月テーマを設けて話し合いを行う。正規職員全員で話し合いがしやすい風通しの良い環境をとりながら研修を行っている。また「教育の質の向上」のための自己評価という目的がブレないようにマンダラチャートを導入。 ・東海北陸大会岐阜大会において園長が石川県を代表し第二分科会のディレクターを務め、約 100 人規模の研修の企画運営を行なった。R8年度も三重大会において幼保小連携をテーマに予定している。(来年度からは司会)。また研修委員の職員+αで東海北陸地区大会に参加し、それぞれ違ったテーマの分科会に参加し、学びあった。 ・8月には以上児リーダーと園長で兵庫県の認定こども園 はま幼稚園に施設見学をし、職員同士の保育の語り合いミーティングを主に学んだ。学んだことを自園でも共有し、10月より CMG「コネクトミーティング」を開始。職員同士が保育を主観で語り合い、それを録音、文字起こしし、全体で共有している。 ・園長が ECEQ コーディネーターの資格を取得(受講修了)R7 年度は伏見かわい幼稚園にてECEQ サブコーディネーターを務め、質の向上を計った。また R8年度は鶴来第一幼稚園からメインコーディネーターとしてのオファーがあり、質の向上のためのコーディネートを予定している。 ・主任主催の新任研修の毎月の実施、また新規採用職員も円滑に園内研修に参加できることをねらいとした次年度採用の職員と園長、主任によ 	A

		<p>る新規採用事前研修を継続。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マネジメント研修の講師として、蔵都氏を招いてミドルリーダー研修を実施。 	
II 地域の幼児教育センターとしての役割			
1	未就園児に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> ・にこにこサークル、園開放を実施、サークルではわらべうたや製作活動、園長による教育講話を行い、未就園児保護者に向け幼児教育を広く伝えている。 ・園見学を個別に対応をして家庭での困りごとを聞いたり、園の子ども達の育ちを話し幼児教育について理解を深めてもらった。 ・各サークルで園の教育方針の情報発信を行った。HPの充実。Instagramによるちよの幼稚園の教育の理解推進を今年度も継続して行なっている。 	A
2	教育相談機能	<ul style="list-style-type: none"> ・発達が遅れている子に対して保護者からの相談ができる環境を整えている。 ・発達相談センター・子ども相談室との定期的な情報交換と各施設と園側の窓口を決め連携を密にした。 	A
3	預かり保育	<ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園に移行してから年を重ねるごとに預かり保育利用者が増え必要な職員数も増えている。 ・支援システムを全職員が基本部分を使えるようになり、より子ども達の管理ができやすくなった。 ・常時の預かり担当が週2回程度の出勤。パート職員や臨時職員も加わり7～8名体制で行う。一部正規職員がフォローしている面もあり、保育後の準備・打ち合わせができない時がある。なかなか夕方時間に保育に入っていただけの職員の採用につながらない。 	B
安全管理			
1	外部侵入者・来訪者に対する安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯に対するマニュアルを作成し全職員で動線を確認し不審者等の緊急時に対する心構えを確認。さすまたの利用等実践とイメージトレーニングの実践を行った。新しいシステムのさすまたを導入している。 ・危機管理研修においては、不審者対応役、職員室対応役、全体連絡役、学級対応役、不審者役をそれぞれの職員でロールプレイし、それぞれの視点を録画し、共有することで不審者対応の共通理解、強化を行った。 ・常時職員が1名職員室に常駐し来訪者のチェック。施錠を実施し不審者が侵入しにくい状況を保った。 	A
2	施設・設備・園児に対する安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・年間安全計画を確認し園、学年、クラスで安全に対する意識を高めた。 ・バスの置き去り事故を機に再度出席やバスの乗降、降車時のチェック体制の確認、マニュアル改定。バスの置き去り防止の安全防止の機械の設置(次年度までに義務化となるが先行して取り付け)職員研修。 ・年間を通して、火災、津波、地震に対する避難訓練を実施した。 津波に関する避難訓練は小学校を使用させていただき実施。 ・副園長が石川県私立幼稚園協会主催の防災・安全研修に参加し、園内の防災マニュアルを見直している。R8年度も継続して参加予定。 ・安全だよりの発行開始 	A

		<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症指数(WBGT)計測器を導入し、夏季は毎日計測し、熱中症対策マニュアルに基づき、戸外活動、プール活動の制限、実施の判断をしている。 ・能登半島地震以後、地震の避難経路の再確認、マニュアルの見直しを行い、より実践的な避難訓練を行えるよう強化を行った。 	
3	衛生に対する安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・週末の除菌やバスの除菌。感染症発生時は換気、毎日の消毒を実施。冬期間は加湿器や窓を開ける等感染対策を実施。 ・給食衛生マニュアル・嘔吐物処理マニュアル等、衛生に関するマニュアルを作成し、給食室においては石川県保健所、白山市保育こども園課の監査において衛生面の説明を行っている。 ・配膳はマスク、帽子、ポリ手袋を着用し、衛生面に配慮を行った配膳を心掛けている。 	A
人事管理			
1	教育目標達成のための人事 教職員の募集採用試験 教職員の雇用条件・労務管理 園長・管理職と教職員とのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・採用試験は試験前に対象者の方に通知を出し、求人票も学校を通して明示した。・職員と労使協定を結んで書面化した。 ・福利・厚生の部分で職員の慰労会を行っている。管理職は職員と同じ場所で職員一人一人に声をかけてきた。職員会議や学期ごとの振り返りの会等で正規職員が顔を合わす機会を作る。 ・学年主任会を行い、園長、主任と学年主任の職員が月間の取り組みについて話し合うことのできる場を設けている。 ・園長、副園長、主任の3人で定例会を行い、管理職同士の連携を深めている。 ・かぜ等、体調不良者や心の面で疲れた職員には早めに帰す等管理職が連携して職員の様子を見てサポートしてきた。 ・良い面をほめるように配慮したり「ありがとう」という感謝の声を管理職から職員に声をかけ温かい職場になるよう配慮する。 ・事務のICT化の推進等を進め、セキュリティを考慮したデータの共有のシステム Google ドライブを導入したが、しっかりと定着している。 ・職員のシフトが複雑化しているのでシフトメーションを導入。作成の負担軽減とバスや早番遅番等の負担平等化を行う。 	A
財務管理			
1	予算決算・財務情報の公開 納付金算定 物品購入	<ul style="list-style-type: none"> ・公認会計士の監査をきちんと受けており、証明を受けている。 ・保育料や保護者負担金、教育充実費の徴収については保護者に手紙を出して理解をしてもう。重要事項説明書を作成し入園する保護者には負担経費の同意を得た上で入園していただいている。 ・物品購入に関しては1つの業者だけでなく比較検討して様々な業者からより質、価格の良いものを入れている。 	A

評価(A:十分に達成できている B:達成できている C:努力を要する)

3. 来年度への課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	保育の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・保育計画改革プロジェクトを発足予定。より実用的な子どもの姿をベースとした保育計画のフォーマットを作成し、手段のための手段とならないような、子どもの育ちをしっかりと担保できるような計画ができるように務める。 ・また個人記録アプリ『ChiyoNote』の本格運用開始予定。子どもの育ちの姿を事実と解釈に分けて記録し、個々の子ども理解から手立てが生まれるような記録を行っていく。
2	施設・設備・園児に対する安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの安全については来年度も継続し高い緊張感を持って、降車後のトリプルチェック等ハード面、ソフト面の安全対策をしっかりと、より安全に子ども達が過ごせるよう努めたい。 ・自園給食の提供が定着化した。より安心、安全でおいしい給食が提供できるよう管理栄養士・調理員と共に衛生面に十分気を付けて進めていきたい。
3	安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き園バスでの緊急の対応訓練や刺股の使用、アレルギーの情報共有等いろんな場面を想定した訓練の実施をしたい。 ・車の送迎のマニュアル・注意事項を作成し、保護者に注意喚起していきたい。 ・R6 年度より発行することとなった安全だよりを今年度も発行し、保護者には必要ととらえるリスク、避けるべきハザード、日々の安全への取り組みについて発信していきたい。 ・R8 開催予定の防災・安全研修に副園長が参加し、防災・安全カードの作成予定。
4	幼保小連携の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・千代野小学校との連携が来年度白山市のモデル地区として選ばれている。R7 年度により充実した小学校、保育園と連携を行うことができたため、R8 年度は継続と更なる強化を目標に、架け橋プログラムを意識した幼保小連携を進め、卒園した子どもたちが安心して小学校に通うことのできる環境を構築していきたい。
5	教職員の雇用条件・労務管理 教員体制の充実 教育環境の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・CMG の継続により職員同士の学び合いを活かしていきたい。職員と研修・打ち合わせを通して環境の見直しを進めていきたい。玩具の数、配置場所、掲示物の掲示や装飾など子どもの発想、表現、好奇心などが刺激させるような環境を構築していきたい。 ・ITC や生成 AI を上手く活用し事務作業の効率化を図り、研修や教材研究の時間等の時間を作り、より質の高い教育環境を作ってきた。また自作した当園専用のアプリを本格運用し、教育環境の更なる充実を図りたい。
6	未就園児に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳児の受け入れを行いながらも、未就園児のサポートは変わらず充実。園開放や未就園児サークルもこの地域に合わせて月3回程度、親子で登園でき楽しめる環境を整え楽しめるように配慮していきたい。子育て相談にも積極的に応じていく。
7	預かり保育	<ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園へ移行し当園では認可定員180名中90名が8時間及び11時間保育を受ける園へ変化した。今後も長時間過ごす子ども達が増えるので教育時間(15:00まで)の教育内容とそれ以降の家庭的なゆったりした保育と子ども達に応じた雰囲気大切にしていきたい。特に1・2歳児は温かい雰囲気を大切にしながら預かり保育を行いたい。
8	研修や研究	<ul style="list-style-type: none"> ・研修委員会による職員自らが学びたい内容の研修の運用を継続して実施していきたい。 ・外部講師の蔵都氏を招き、「初任者研修会」「ミドルリーダー研修会」を企画運営していきたい。 ・学年主任と共に園外視察に機会を設け、教育の視野がさらに広がるように研究を重ねる。

クラス又は役職【 園長 】
氏名【 】

取り組んだテーマ

ウェルビーイング（長期的幸せ）を感じられる園づくり

KEEP（よかったこと・継続したいこと等）

今年度は子どもたちがウェルビーイングを感じられるような園づくりのために「個々、施設を『つなげる』』ということ意識し、様々なことに取り組んできた。

まず取り組んできたのが幼保小連携である。R7年度より千代野校区の小学校と当園を含む幼稚園、保育園を対象とした地区ブロックが白山市の幼保小連携のモデル地区となったこともあり、例年以上に架け橋期の連携強化に努めた。具体的には他施設に理解と協力をもらい、8月に小学校、幼稚園、保育園での職員合同研修の実現することができた。研修では個々の施設においての保育・授業を紹介しあい、お互いの共通点、相違点に気づき、共通の『育てたい子ども像』を考え合うことができ、チーム作りを行うことができた。この研修が基盤となり、施設間の職員同士のコミュニケーションが円滑になり、幼保小のスタートカリキュラム作成にまで繋げることができた。

続いて夏季には各学年のリーダーと共に兵庫県尼崎市のはまようちえんへ施設見学を実施し、EMG（イブニングミーティング）という職員個々が主観で保育を語り合うというミーティングの姿を拝見し、当園でも話し合いを重ね、無理のない形でENG同様に保育を語り合うミーティング、CMG（コネクトミーティング）を実施することができた。現在も継続して実施することができている。またミーティングを録音、文字起こし要約し、ミーティングに参加していない正規職員、パート職員にも共有し、各学年、個人の保育観がより見えるようになった。他にも父親の会や、当園オリジナルの記録アプリの開発など、人や、物、思考を繋げることで成果を得てきた。来年度はそれらをより確実性を高め、継続、アップデートを図っていききたい。

Problem（問題点・改善点等）

今年度は新しいことに挑戦することが多かったあまり、これまで行っていたことの継続性と質の向上に繋がられなかったこともあった。昨年度、週に1回幼稚園の環境・保育について投稿していたInstagramのアップロード頻度も減り、園の外部への発信の強化までには至っていない。また個々の職員に寄り添うための1on1（ワンオンワン）ミーティングの実施計画を立てていたが、実施までに至らなかったという反省点がある。

来年度は夏季の預かり保育の時間を利用するなどして実施し、職員一人ひとりの思いに寄り添うことができると感じる。

Try（挑戦したいこと・やってみたいこと等）

今年度多くの挑戦をしてきたが、まだ完成形に達していないものもあるため継続しながら、模索していききたい。

今年度、作成した個人情報のセキュリティ面も高い子どもの個人記録のアプリを職員に実際に使用してもらいながらフィードバックを重ね、個々の子どもをまんなかとした記録、次の育ちに繋がるための記録になるように完成に向けて追求していききたい。またコネクトミーティングや園内研修、新任研修などもしっかりと計画性を持って実施し、職員が楽しみながら学び会える機会を担保し、教育の質の向上を図っていききたい。そして今年度の初の試みとして実施した父親の会を確立していききたい。事後アンケートでは学年別、年に2回開催してほしいという声があったため、改めて目的を設定し実現していききたい。

その他にも保育の週案や月案といった計画の充実を図るためプロジェクトメンバーを指名し、メンバーと一緒にねらい、書きやすさを確認しながら、子どもの今の姿を捉えながら、こどもまんなかとなる計画ができるようにしていききたい。引き続き、子どもたちがウェルビーイングを感じられる園づくりができるよう努めていききたい。

取り組んだテーマ

子どもの主体性を育む

KEEP（よかったこと・継続したいこと等）

今年度は「子どもの主体性を引き出す手立て」をテーマに子どもが活動の主役となる保育を実践してきた。1学期は、子どもたちが自分の思いを安心して表出できるよう、受容的な関わりを徹底した。発言への感謝を伝え、どんな意見も肯定的に受け止めることで「自分の声が届く」という実感を育てた。その結果、お泊まり保育や乗り物遊びにおいて、子ども同士が意見を出し合い、納得解を見つけながら一つの目的に向かう姿が見られた。

ボードゲーム大会やレゴブロックコンテストなど、自ら「参加」を選択する形式を取り入れたことで、内発的な動機付けを高めることができた。決められた活動をこなすのではなく、自分で選ぶ楽しさが、より意欲的な取り組みへと繋がった。

「サイエンスヒルズ小松」への遠足がきっかけとなり、科学的な視点を持つことができた。色水の混合や苔の育成など、子どもたちの「なぜ？」から始まる実験遊びが活発化し、実体験に基づいた学びが深まった。また保育参観でも科学にちなんだ内容を親子で行うなど連続性のある遊びに展開することで意欲的に参加する姿が見られた。

Problem（問題点・改善点等）

話し合いや振り返りの場は持てたものの、その内容を視覚化して提示することが十分にできなかった。活動の経緯を形に残せていないため、子どもたちが過去の気づきを再認し、次の活動へ繋げるための「見える化」が課題だと感じた。また子どもたちの「やりたい」という意欲に応えるための、道具や材料の配置がまだ不十分である。必要な時に必要なものを取り出せる環境を整えることで、子ども自身の手で探究を深められる環境を整えていきたい。

Try（挑戦したいこと・やってみたいこと等）

・視覚的教材の研究と導入：活動のプロセスを写真や文字で掲示し、子どもたちが自ら振り返れる環境を整えていきたい。これにより、発想がさらに広がるような仕組みを作りたい。また道具や廃材などを常設化したコーナーを作り、子どもたちが自由に素材を選び、試行錯誤できる環境を整えたい。

他にも一つひとつの活動を単発で終わらせず、前日の気づきが翌日に繋がるような「遊びの連続性」を意識して計画を立てていきたい。

クラス 又は 役職【 年少担任 】

氏名【 : 】

取り組んだテーマ

子どもたち 1人ひとりの思いを大切にする。

KEEP (よかったこと・継続したいこと等)

- ・ 子どもたち同士の話し合いを大切にできた。
保育やトラブル時においてどうしても保育者が真ん中になってしまっていたが、3学期を通して、子どもたち同士がお話できるような言葉掛けをし見守ることができた。
- ・ 「できた！」を大いに褒め、自信に繋げることができた。
お友だちの前でお話することが苦手な子や製作が苦手な子への声掛けを大切にし、言えた時には「言えたね!」「できたね!」と大いに褒めることで、その子の自信に繋がった。
そして「先生見て」と自ら出来たことを嬉しく感じられることができ、日々の成長を喜ぶことが出来た。
- ・ 保護者とのコミュニケーションもとることが出来た。
預かり保育やドライブスルーを通して、その子の一日の様子や成長をお伝えし、一緒に喜ぶことが出来た。感謝の言葉も頂くことが出来て嬉しく思い、次年度も続けていきたい。

Problem (問題点・改善点等)

- ・ 行事の後など、丁寧に子どもたちと話し合いすることが難しかった。
行事の余韻を感じられるよう子どもたちから感想を聞き、話し合うことができる時とできない時があったので、一つひとつのイベントをもっと感じられるようお話したらよかった。
- ・ 保育における知識がまだまだ未熟で、案をあまり出せなかった。
研修や保育の本からの学びを上手くいかせず、自分から主体的に動けなかった。

Try (挑戦したいこと・やってみたいこと等)

- ・ 来年度は、今の季節や発達に合った活動を積極的に行いたい。
そして子どもたちの思いからも取り組めることを実践したい。
→季節の自然物を拾い製作にしたり、実験をするなど
- ・ 年少→年中になる子どもたちなので、より子どもたち同士で話し合えるよう見守っていききたい。
自分の思いも相手の思いも聞くことが出来るよう少しずつ促していききたい。
- ・ リトミックやアートなど子どもたちが自ら思いを表現できるようペアの先生と話し合い活動していききたい。
→言葉で「今これする時間だよ」というのではなく音楽を通して進めていききたい。
そして、普段自分の思いを伝えることが苦手な子でもアートを通して表現できるよう活動していききたい。
- ・ 一年目の時よりも積極的に動き、自分にできる事を見つけて一年取り組んでいきたい。

クラス 又は 役職【子育て支援】
氏名【】

取り組んだテーマ

子育て支援を通してちよの幼稚園の事を知ってもらう

KEEP (よかったこと・継続したいこと等)

子育て支援を通して園の思いや取り組みを親子で感じてほしいという願いを込めて取り組んできた。
○子育て支援では子の名前を呼んで話しかけ少しずつ距離を縮める中で子どもたちの新しい一面に気づくことができた。保護者の方にむけて、製作時に手先を使う大切さ、オノマトペを入れた言葉がけなど製作時に親子で取り組んでほしいポイントが伝わるよう意識した。
○クラスだよりやおうちえん、サポートに入ったときには各学年の取り組みを理解する事に努めた。夏には各学年の色水遊びを参考に子育て支援でも取り入れた。色水遊びのコーナーを作り、色水を混ぜる遊びや色氷を用意し視覚や感触を楽しめるよう年齢に合わせて工夫した。
○次年度の入園書類の作成では昨年の記録が参考になり早い段階で取り組みをスタートすることができた。

Problem (問題点・改善点等)

○子育て支援では親子で楽しむ姿が見られたが保護者の方に活動の中でどんな発達を伸ばしたいかを伝える工夫があまりできていないように感じる。
○書類の準備では各学年、新入园児、在園児で配布するものが違うこと、アプリ配信もあり種類が複雑で把握が難しく、早く準備を始めることができたが、予定よりも完成が遅れた。
○イレギュラーなことが重なると余裕が無くなり体力や気力が持たない時もあった。

Try (挑戦したいこと・やってみたいこと等)

○子育て支援では親子で楽しい時間となるよう引き続き努めていきたい。製作ではいちご摘みやお店屋さん、夏祭りなど体験型の製作も取り入れているが、普段の製作でも小さなワクワクや発見を体験できるような製作を考えていきたい。
○未就園児の子どもたちの発達を理解し、サークルのなかで自分の大事にしているねらいを保護者の方にむけて伝えていきたい。
○おうちえんやクラスだより、補助に入ったとき、CMGも確認しながら学年の取り組みや子どもたちの成長を身近に感じられるように意識していきたい。また園での子どもたちの様子を保護者の方と会話しながら伝えていきたい。
○書類の準備では疑問点を携わる先生と確認しながら抜けがないよう共通理解をしていきたい。記録は配布時期を記入、反省や改善したいこともあれば記録に残す。また、作業時期をアプリの予定表にも残し未来の自分や引き継ぐ先生にメッセージが届くようにしたい。
○イレギュラーなことが重なっても優先順位や自分のできる範囲を把握する為にタスク管理し、視覚的に見えるように心掛ける。

<p>取り組んだテーマ 「主体性を育む園づくり」 対→①子ども②保護者③職員（園内研修）④職員（園外研修）の取り組みについて</p>
<p>KEEP（よかったこと・継続したいこと等） 今年度は「主体性を育む」をテーマに4つの観点から進めてきたがその中で大きな成果を得られたのは保護者対応である。在園児保護者と未就園児サークルや園開放に来園された保護者からの育児相談において、単なる傾聴する相談に終わらず、保護者自身が主体的に考え自己決定し行動につながるように心がけ多くの成果が得られた。</p> <p>①在園児保護者対応（多くの育児相談を受けたがその中から抜粋） ・深刻に悩んでいた母を市の相談機関につなげ、園・母親・相談機関の3つの連携がうまくできたことにより、現在も市からのサポートも受けながら前向きに子育てをしている。 ・日々電話で自分を取り巻く辛い環境について嘆いていた母が、子どもの発達段階や成長についての話のやりとりをする中で、自分のことよりも子どもにとって何がいいかということを考えられるようになり落ち着いてきている。</p> <p>②未就園児サークル ・サークルに来てくださっていた母が、仕事をしなくてもいい環境にありながら、周りの方の言葉や早く預けなくてはいけない風潮で悩んでいたが、周りに流されず子育ての大切さを話し合ううちに、入園時期を年少組まで待ち子育てを大事にしようという考えになった。 ・子どもの泣き声で悩んでいた母親も自分の思いを吐露されて、自分だけでなく周りの方の力を借りることができるようになり明るいお顔になった。 多くの育児相談を受けてきたが、暗い表情だった母が明るく前向きになれた様子を見ると、母親の心に寄り添い必要ならば専門の機関につなげ子育ての悩みを乗り越えていけるように援助していくことが子育て支援においての重要な役割であることを改めて認識できた。今後も1人でも多くの保護者の方が子育てにおいて迷ったり悩んだ時の心の支えになれるよう努めてゆきたい。 ・サークルで初めてアイスブレイク（参加者の緊張を和らげ話しやすい雰囲気をつくるための雑談など）を取り入れ、他のお母さん方の思いや考えを共有できたことも良かった。</p> <p>③未就園児サークルで子育ての楽しさを体感して喜んでいただいた。 ・特に親子のふれ合いで大切にしているわらべうたや親子でエクササイズでは、昔からの伝承あそびや今流行りの人気曲も取り入れ、マンネリにならないように工夫した。親子共々体を動かすことでの発散もあり笑顔が多く見られたので、今後も新しいことに挑戦し取り入れ皆さんに喜んでいただけることを考えてゆきたい。</p>
<p>Problem（問題点・改善点等） ・園開放や未就園児サークル、在園児の保護者など多くの相談をお受けしたいが、時間が限られているので、その都度要件をお聞きしながら別日を設定するなどの方法をとっているが、相談したいときの気持ちはその日が大切なケースもあるので、難しい点も感じる。 ・毎年の課題だが未就園児サークルは、1歳から3歳までが対象なので、製作などは親子で調整できるが、わらべうたやふれあい遊び、体育あそびなどは皆が楽しめる様な題材にするのが難しいので来年度も様々な方法を考えてゆきたい。</p>
<p>Try（挑戦したいこと・やってみたいこと等） ・今年度アイスブレイクからの情報交換が好評で「して良かった！」「またしたい」という言葉が多く聞かれたので、来年度はサークル第1回目のはじめましての会も含め年に2回程取り入れる予定。 ・数年前に置いていた保護者お悩み相談箱を復活させなかなか自分から口に出して話せない方にも働きかけてゆきたい。 ・保護者の方が小さい時に遊んでいたわらべうたや童謡、楽しかった遊びなどの紙ベースでの募集や園開放での情報交換などで収集したものを皆に紹介するなど保護者の意見を取り入れた主体的なサークルづくりにも挑戦してゆきたい。 ・保護者自身が楽しめる歌やダンスなども取り入れ育児の発散ができるようなことも考えてゆきたい。 ・親子で集団で楽しめる伝承遊びやゲームなども取り入れてゆきたい。 ・今までにしたことのないこと、ダイナミックに遊べる絵画表現やみんなで1つのものを作りあげること、又簡単な劇あそびで物語の中に入り楽しめる表現活動や動物などの体表現やリズム、園庭や中央公園までの遊歩道を使つての遊び探検や絵本のスライドでの上映など様々なことにも挑戦してゆきたい。</p>

取り組んだテーマ

「幼稚園が楽しい」と思えるクラスづくり

KEEP (よかったこと・継続したいこと等)

今年度は、子どもたちにとって「幼稚園が楽しい」と思えるようなクラスづくりのために、1.『遊びの幅の拡充』2.『肯定的な声かけ』3.『見える化』4.『振り返り』といった4つのカテゴリに分類して、様々な活動や記録に取り組んできた。

1.『遊びの幅の拡充』では特に、リトミック活動を継続して行ってきた。子どもたちと一緒に排泄やお集まりの際の曲を決めた。1日の中でその都度ピアノを弾いたことで子どもたちは、音を聴いて判断し行動することができるようになった。

2.『肯定的な声かけ』では、クラスの子どもたち一人ひとりに丁寧に向き合い、1日5人は褒めることやちびっこ先生の紹介を積み重ねたことで温かいクラスの雰囲気作りへとつながった。特性を有する子に対しても、愛情と願いを念頭に置きながら、肯定的な声かけはもちろん、規範意識に基づいて時には厳しさを持って指導することで、より育ちを実感することができた。

3.『見える化』では、自然遊び、アート活動、運動会、発表会、栽培といった園内行事や、主活動での子どもたちの育ちや、取り組みが視覚化できるように、年間を通してドキュメンテーションの掲示を行なった。参観の際には、保護者の方の目にもとまり、子どもと教師のみならず、家庭と園で子どもたちの頑張っている姿や、取り組みの共有につながった。

4.『振り返り』では、担任同士、多学年の先生や管理職の先生方等、より多くの先生方と日常の保育・教育の中での学びや困り感の共有を積み重ねてきた。よって、個人記録が充実したものになり、年度末の要録作成の際にも具体的な育ちの記録を残すことができた。

上記4つを継続することで、さらに自分自身の保育・教育スキルが向上していくと考える。よって継続・アップデートを図っていきたい。

Problem (問題点・改善点等)

今年度は、学年の人数や活動が多く時々タイムリミットの保育・教育になってしまうことが多々あった。「本当に主体性になっていたのか？」と悩む日もあり、焦った時にこそ「こどもまんなか」を意識していきたい。

また、健康面ではコロナウイルスやインフルエンザ等の感染症にかかってしまった。担任として子どもたちが安心して幼稚園に通えるようにするためには、自分自身の体調管理に努めたい。

Try (挑戦したいこと・やってみいたいこと等)

今年度は曼荼羅チャートを作成したことで、自分が計画した目的に対して効率的に取り組むことができた。しかし、振り返りを積み重ねながら、さらに目的が見つかった。

来年度は、発達段階を理解し目の前の子どもの実態に寄り添って声かけや援助をすること、アート活動は連続性を持って気軽に行うこと、環境構成の頻度を上げること等を特に心がけていきたい。

クラス 又は 役職 【 年長担任 】

氏名 【 】

取り組んだテーマ

子ども同士が教え合い・助け合う保育

KEEP (よかったこと・継続したいこと等)

今年度は、子ども達が行事活動に意欲的に取り組み、活動を通して「自分は出来るからいいや」ではなく「助け合い・教え合いながら頑張ろう」と、みんなで挑戦し乗り切る達成感や、友達のことを素直に認める心を育むことを意識して取り組んできました。

その取り組みの一つとして「こま回し名人大会」を開催しました。こまを30回以上回せた子がこま名人となり、帰りの会の時にみんなの前でこまを披露してもらいました。お客さんは自分もみんなの前で回したいという思いから、こまの練習により意欲的に取り組むようになり、こま名人は皆の前で回す緊張感に慣れたり、友達にコツを教え、「今の惜しかったね」と励ます姿が見られたり等、いい機会になりました。また、年中の子とこま回し交流を行った際には手を添えて優しく教える姿も見られ、協力的に相手を気遣う心が育まれたのではないかと感じました。

Problem (問題点・改善点等)

今年度では「主体的に動けなかった」ことが自分の課題だと感じています。年長の担任が初めてということもあり、日々の仕事を終わらせるのに必死で余裕がなく、自ら案を出し、挑戦することが出来ませんでした。来年度は、余裕をもって取り組めるようにしっかりと見通しを立て、恐れずに新しいことに積極的にチャレンジしていきたいです。

Try (挑戦したいこと・やってみたいこと等)

来年度は「絵本の活用」と「食育活動」に挑戦してみたいと思っています。絵本の活用では、行事活動だけでなく、生活面や製作、外遊びにおいて視覚教材を使って、より子ども達が分かりやすい工夫をしたいという思いと、活用することで遊びの幅が広がり、意欲の向上に繋がるのではないかという思いから実践していきたいと思っています。食育活動では、食の大切さを学ぶだけでなく、食べ物にも命があるということ、命を育てる大切さを学んでいける機会を作りたいです。また、野菜スタンプ等、製作とも繋げていけたらと思います。

クラス 又は 役職【たんぽぽ担任】
氏名【 】

取り組んだテーマ

幼稚園が楽しいと思えるようなクラスづくり

KEEP (よかったこと・継続したいこと等)

私は今まで2歳児ということで幼稚園生活が初めての子も多いということで子どもたちに幼稚園が楽しいと思ってもらえるようなクラス作りを取り組んできました。

まずは新入園児や旧ふたばのこと信頼関係が築けるようにたくさん自ら関わりに行ったり、お話を楽しんだりと努力してきました。それを続けることで徐々に子供たちとの信頼関係も築くことができ、またお友達と遊ぶって楽しいと思ってもらえるように集団遊びにも挑戦しました。

集団遊びを繰り返し行っていくことでルールを理解し参加する姿や、お友達とのお話を楽しみながら遊んでいる様子もみられこれからも集団遊びは続けていくべきものだと思います。

Problem (問題点・改善点等)

・複数担任ということで共有を忘れてしまう事が時々あった。なので大事なことはメモや手に書くなど目に見えるところに書いておく意識をしました。

おたよりの確認が前日になってしまったり、今日の予定を全員の先生に伝えられていなかったりした、なので次からは忘れないように見える位置にメモなど意識付けをしていこうと思いました。

Try (挑戦したいこと・やってみたいこと等)

集団遊びでもう少し難易度のあげた遊びに挑戦したいです。

昨年度は「おおかみさん今何時」「むっくりくまさん」「リトミック遊び」など簡単なルールのもが多かった。なので次は「椅子取りゲーム」という内容でイスは始め危険な気もするのでフラフープから始めるなどの工夫をしていきたいと思いました。

その他にも子どもの声を大切にしながら保育していき、子どもたちが幼稚園に行きたい！と思えるように努めていきたい。

クラス又は役職【さくら 】
氏名【 】

取り組んだテーマ

子ども達の生き生きとした笑顔が見られる保育

KEEP（よかったこと・継続したいこと等）

- ・子ども一人ひとりの思いや興味に寄り添いながら、生き生きとした笑顔が見られる保育を大切にしてきた。活動のつながりや体験の積み重ねを意識することで、子ども達が主体的に楽しむ姿につながったと感じている。
- ・活動同士のつながりを大切に、イメージを広げながらなりきって楽しめる保育ができた。夕涼みの忍者、運動会のディズニーランド、発表会のサーカスと経験がつながることで、子ども達の笑顔や主体的に楽しむ姿が多く見られた。
- ・戸外活動では探偵や忍者に変身するなど、遊びの要素を取り入れて活動を組み立てたことで、楽しみながら自然に関わる姿が見られた。散歩や遠足を通して自然に触れ、豊かな感性を育むことができた。ECEQ研修や自然インストラクターからの学びも活かされ、自身の保育の幅も広がった。
- ・アート活動では、絵本と結びつけながら様々な表現に挑戦した。特にボディペイントや色水遊びでは、開放的に楽しみながら色の変化に気づき、夢中になる姿が印象的だった。
- ・お店屋さん遊びから店舗見学へとつなげることで、地域や社会との関わりも深まり、働くことへの興味や感謝の気持ちを育む姿が見られた。

Problem（問題点・改善点等）

- ・準備や分担が十分でなく、日々の動きが慌ただしくなってしまうことがあった。その結果、子どもと落ち着いて関わる時間が減り、余裕のなさが課題である。
- ・自由遊びの時間に準備や考えごとを優先してしまい、十分に寄り添えず、遊びの深まりを支えきれていない場面があった。
- ・個人記録が後回しになり、継続的な振り返りが十分にできていない点も課題である。

Try（挑戦したいこと・やってみたいこと等）

- ・早めの準備や計画、役割分担を意識し、余裕をもった保育につなげていきたい。一人で抱え込まず、パート職員や新人職員とも協力しながら、「やってみよう」という意識で進めていく。
- ・自由遊びの時間を大切に、子どもと一緒に遊びながら興味に寄り添い、遊びが広がるような関わりや環境づくりをしていきたい。遊びの変化も定期的に振り返っていく。
- ・個人記録は計画的に行い、継続して子どもの姿を捉えていく。職員間でも共有しながら、多面的に理解し、保護者との信頼関係づくりにもつなげていきたい。

クラス又は役職【 事務 】
氏名【 】

取り組んだテーマ

事務職員として、先生たちを支える土台づくり

KEEP (よかったこと・継続したいこと等)

今年度は、保育に専念する先生たちを支えるために保育に関する事務を率先して行い、また事務職員として保育に関する事務の基礎をしっかりと覚えていく土台作りに取り組んだ。加えて、図書館司書としての知識を生かすことにも取り組んだ。

まず始めに取り組んだのは、今まであやふやに覚えていた保育に関する必要な事務知識を改めて調べ上げ、視覚化しいつでも確認できるようにした。また、一カ月の事務を洗いだし事務の抜け漏れを防ぐため、各事務に対する締切日を決め優先順位に基づくタスク管理をした。それによって事務が滞ることなく進めることできた。加えて、タスクはパソコンや手帳で「見える化」した。

次の取り組みとして、保育にいかせる絵本展示をした。月初めに展示できるように、季節を活かしたテーマを決め、どの絵本を選書するか学年など考慮しながら集め月末までに準備をした。この準備期間があったおかげで、月初めに絵本展示をすることができた。

最後に、朝の玄関の時には笑顔で迎え、元気に挨拶するように心掛けた。また保護者に対しても笑顔で挨拶をした。登園しぶりの子には寄り添いながらも、保護者に有無を確認しつつ登園につながるように努めた。

Problem (問題点・改善点等)

小さい事務(例えば、欠席入力)などを後回しに抜け漏れミスをしがちであった。その日のタスク管理にしっかりと組み込むこと、優先順位が低いと判断せず直ぐにしてしまうこと、見える化すること、この3点を徹底することで改善されるのではないかと思う。

また、絵本棚が乱れがちなため整理整頓もしていきたいと思う。絵本棚は玄関にあるため、保護者や来客者の目に付きやすい。物の乱れは心の乱れという言葉もある通り、環境の乱れは園に余裕がないと心理的印象を与えるので、常日頃から整理整頓をしていく。

Try (挑戦したいこと・やってみたいこと等)

今年度は、事務の土台づくりに励んできた。この土台を発展させ、しっかりと固定化、定着化させていきたいと思う。先生方が保育に専念できるように、事務で出来ることは事務で率先して行っていく。

また、園での一年の流れ、一カ月の流れは把握しているがどうしても直前まで事務仕事をしているので、心の余裕を保つためにも早め早めの準備をしていきたい。

最後に、引き続き朝の玄関のときは、爽やかな笑顔で元気に子どもたちを迎えていきたいと思う。大きな挑戦でははいかもしれないが、コツコツと積み上げていきたい。

クラス 又は 役職 【 管理栄養士 】
氏名 【 】

<p>取り組んだテーマ 子どもたちの心身の健やかな成長</p>
<p>KEEP (よかったこと・継続したいこと等)</p> <ul style="list-style-type: none">・昼食時のクラスの見回りは1年間継続して行うことが出来た。これによって、給食先生として顔を覚えてもらうことができ、声掛けをすると「一口食べてみようかな」と苦手な食材に挑戦するなど、喫食率アップに繋がったと考える。・旬の食材を積極的に使用し、子どもたちに旬の美味しい食材の提供、コスト意識を持ち献立作成をすることができた。旬の食材をクラスで紹介する取り組みも数回行うことが出来た。・新しい献立を月に2品ほど入れることができ、マンネリ化しないよう努めた。・農園さんにアポイントメントを取り、直接お話を伺い、新しい食育活動が出来ないか検討することが出来た。
<p>Problem (問題点・改善点等)</p> <ul style="list-style-type: none">・旬の食材の紹介をする頻度が少なかった。・お話を伺った農園さんに、見学や収穫体験をさせていただくなどの活動に繋げることが出来なかった。・子どもたちが苦手とする食材の残菜が相変わらず多かった。・自分の知識を深めるために、積極的な研修会への参加が出来なかった。・給食だよりにて、子どもたちの給食の様子など自分の言葉で保護者にお伝えする機会が少なかった。
<p>Try (挑戦したいこと・やってみたいこと等)</p> <ul style="list-style-type: none">・旬の食材や珍しい食材を使用する際は、子どもたちに必ず紹介を行うことが出来るように、月初めにどの食材を紹介するのか決定するよう努める。・農園さんに再度アポイントメントを取り、子どもたちの食育活動が行えるように、具体的に話を進めていくこと、子どもたちが生産者の方のお話を伺ったり、体験を行うことによって感謝の気持ちを育み残菜減少に繋がっていきたい。・幼稚園協会主催の研修以外に、1つは参加する。・学期に一度は必ず、給食だよりで自分の言葉で子どもの様子をお伝えする機会を設ける。・引き続き、安全で美味しい給食を適時適温で提供していく。

クラス又は役職【ふたばぐみ】

氏名【 】

取り組んだテーマ

安心できるクラス・園づくり

KEEP(よかったこと・継続したいこと等)

今年度は、子どもたちが安心して過ごせるクラスづくりを大切にしながら、愛着形成を土台に自立へとつなげていけるよう取り組んできました。

1学期は、一人ひとりと丁寧に関わり、安心して過ごせる環境づくりと信頼関係の構築に努めました。その中で、子どもたちが保育者を拠り所としながら自分の思いを表現する姿や、安心した表情で過ごす姿が少しずつ見られるようになりました。

2学期以降は、自立への一歩として、「自分でやってみたい」という気持ちを大切にしながら、子ども自身が興味や関心を見つけられるような関わりや環境を意識してきました。五感を使った活動を無理のないペースで取り入れる中で、子どもたちが自ら関わろうとする姿が増えていったと感じています。

具体的には、6月にカレーパーティーに関連付けた食育活動を行いました。実際の食材に触れる経験を取り入れたことで、子どもたちは興味をもって話を聞いたり、自分から関わろうとしたりする姿が見られました。1歳児においても、実物に触れる体験が主体的な関わりを引き出すことにつながると実感しました。今後は、一人ひとりの育ちや興味関心をさらに丁寧に捉えながら、子どもたち自身の「やってみたい」という気持ちを引き出せるような活動や体験を大切にしていきたいと考えています。そして、その積み重ねが自立へとつながっていくよう、継続して関わっていきます。

Problem (問題点・改善点等)

今年度の課題として、活動や製作、お約束の話を子どもたち全体に伝える際の工夫が挙げられます。

保育を進める中で、子どもたちの視線を集め、興味を引き出すためには、視覚的教材の活用が非常に有効であることを実感しました。しかし、その教材の発案や作成に十分な時間を確保することができず、準備が時間外になってしまったり、より工夫できたのではないかと感じる場面もありました。

その結果、子どもたちの集中が続きにくい場面や、伝えたい内容が十分に伝わりきらないと感じることもあり、事前準備の重要性を改めて感じました。

要因としては、日々の保育や業務に追われる中で、計画的に教材準備の時間を確保できていなかったことや、見直しをもった準備が不十分であったことが挙げられます。

来年度は、今年度作成した教材や取り組みを土台としながら、事前に計画を立てて準備時間を確保し、より子どもたちの興味関心に合った視覚的教材へと工夫・改善していきたいと考えています。また、繰り返し活用できる教材の工夫や蓄積を行うことで、無理のない形で質の向上につなげていきます。

Try (挑戦したいこと・やってみたいこと等)

今年度の保育を振り返り、日々の積み重ねや体験の積み重ねを大切にすることで、1歳児でも活動や体験を十分に楽しむことができる実感しました。

今後はこの経験を活かし、五感を使った体験活動をさらに充実させるとともに、子どもたちが集中して取り組めるような教師の関わり方や視覚的教材の工夫を継続していく必要があると考えます。

また、これまでの実践をもとに、時期に応じた活動や体験を整理し、見直しをもった保育が行えるよう年間計画の作成・見直しを行っていききたい。

具体的には、これまで行ってきた活動や子どもたちの反応を記録・整理し、「どの時期にどのような体験が適しているか」をチーム共通理解、可視化していきたい。その上で、年間を通した活動計画を作成し、子どもの発達や興味関心に応じて柔軟に見直しながら実践していく。

また、活動の導入や約束事の共有においては、視覚的教材を計画的に準備できるよう、事前に内容を見直し、無理のない形で作成時間を確保する工夫をしていく。繰り返し活用できる教材を蓄積、整理することで、保育の質の向上と効率化の両立を図っていききたい。

クラス又は役職【 副園長 】
氏名【 】

取り組んだテーマ

笑顔で支えあう教育環境（子ども達・保護者・職員の笑顔広がる環境づくり）

KEEP（よかったこと・継続したいこと等）

- ・40名あまりで調整をしながら運営をしているがシフト調整が難しい。偏りが出たり体調不良の先生もいる。試行錯誤しながら今年度は人数が少ない時には先に情報を伝えお休みを変更しても構わないと声がかかり調整していく等余裕を持って理解・協力しあう心をつなげてきた。ただ伝えるのではなく、季節の言葉を入れたり絵文字を入れる等毎朝一番に送り見られるものなので心つなげようと努力をし、職員からも感謝の言葉や協力・提案をもらい急なお休みや長期休みの先生もいたがカバーしあう雰囲気が持てた。
- ・職員とコミュニケーションを図り「ありがとう」の言葉を多く使い心通わせるように意識してきた。多くの職員がいるとはいえ出勤時、退勤時にはなるだけ目を見て挨拶をしたり声をかけていない職員には自分から声をかけたりしてきた。職員からシフト作成では感謝の言葉が来るようになり努力の实りを感じる。保護者とのかかわりでも「いつもありがとうございます」と笑顔でかかわるようにしている。
- ・外回りの環境については朝の園周りの清掃を行い、子ども達の環境充実の為1歳児用屋根付きウッドデッキや園ホールの遮熱塗料を塗布する等安全環境の整備も進めてきた。適宜芝や園庭遊具も修繕し安心な環境づくりを意識してきた。子ども達が楽しそうに遊ぶ姿を見て自分も嬉しく思う。職員の困り感に寄り添いながら環境面でサポートを重ね職員から感謝の声があった。保護者や地域からも地域清掃等で感謝の声を頂きありがたく感じている。
- ・災害時事業継続計画作成の為研修を行い、改めて園で災害発生時の対応の難しさや備えの重要性を感じた。水、お米の備蓄を始めた。まだまだ足りないものはあるが今後も続けていきたい。

Problem（問題点・改善点等）

- ・忙しいがあまりに心が沈む事がある。複数の動きに対応していく必要があるが抜ける事があった。物事の優先がうまくいかず園全体や子ども達に迷惑をかけそうになった事もあるので一つ一つ抜けないよう工夫をして改善している。意識をして笑顔で職員とかかわったりするようにしているがなかなか職員と深く話しをしたり子ども達の姿やクラスの姿が把握できていない面がある。
- ・雨対策等子ども達・保護者の安全を意識した環境改善を進めてはいるが全てを行うには時間が足りない。消防との関係もあって設置をしていのかという悩み若干躊躇している面もある。
- ・災害時計画の書面がまだ出来上がっていない。いろいろ考えたり資料を見たりしているが津波、大雨、地震等いろんな想定を考えたりバスの時等考えすぎて計画が進められていない面がある。

Try（挑戦したいこと・やってみたいこと等）

- ・管理職という立場上自分の声掛け一つで笑顔になったり悲しい気持ちになるので言葉や表情には今後も気を付けていきたい。事務的な事や作業が立場上多くはなるが、園児・保護者・職員とコミュニケーションをとるアンテナは今後大事にしていきたい。
- ・シフトは毎月状況が変わる。年度の変わりにも先生方の入れ替えもあり大きく流れが変わる。一つ一つ一人ひとり心を入れて気持ちを入れて先生方とやり取りをしながら理解が難しい面もあるが納得感が持てるよう進めていきたい。
- ・今年度も危機管理の面での研修を受けたり学びを続け、より必要な物品の購入を進めたり、事業継続計画の初版を作り上げていきたい。
- ・園に来られる方が地域の方々が気持ちよく使えるような環境づくりをこれからも継続し、笑顔が広がるような支援を続けていきたい。新しい事ではないが大事なベースをしっかりと守るのが責務と思っている。